



ふじ美が原

富士見中学校

友達の行動には必ずその人の心がある それに気づける人になろう

特集：二学期始業式

【二学期始業式、教頭先生のお話】
「友達の行動には必ずその人の心がある」
今日は校長先生が出張なので、代わって教頭が話します。



この現場にいたわたしも皆さんと同じことを考えました。

わたしが教員になって5年目の出来事です。その当時、わたしは、中学校1年生を担当していました。国語の教科担任が出張で、自分のクラスの補習を頼まれました。内容は、図書館で読書と担任から読み聞かせをしてほしい、というものでした。
クラスの生徒がほぼ本の貸し借りが終わり、担任のわたしが読み聞かせをしました。話が佳境に入り、皆が大笑いしたときです。
一番後ろで聞いていたA子さんがいきなり立ち上がって、環から抜けていきました。そして、バケツに水を汲んできて、その汲んできた水をB子さんへ、バチャンとかけたのです。水をかけられたB子さんは大泣きでした。
皆さんが、わたしの立場であつたら、どう思いますか？隣同士で話し合ってください。

「A子さんは、B子さんを泣かせた。人を悲しませたA子さんはいけない。」
「A子さんは、いきなりB子さんへ水をかけていけない。」
「B子さんが、A子さんへ何か嫌なことを言ったのかも。」
「A子さんがやったことは、いじめだ。」
皆さんも、そう思いますよね。

も、A子さんの人柄を知るわたしは、きつとA子さんなりの理由があるのだろうと思いました。

わたしは、ずぶ濡れのB子さんを保健室へ連れて行き、「何があつたの？」と聞いてもB子さんはただ泣いているだけでした。そこで、A子さんを研究室へ呼んで、「どうして、水をかけたの？」と聞きました。しかし、A子さんも黙ったままでした。わたしは、図書館に戻り、床を拭こうとすると、子どもたちが床を拭いてくれています。その子たちに代わって、床を拭いていると理由が分かりました。皆さんは、分かりますか。



A子さんと呼んで確認すると、認めてくれました。それは、B子さんは、わたしの読み聞かせで、大笑いしたときに、おしっこを漏らしてしまったのです。それに気づいたA子さんは、B子さんが漏らしてしまったことを隠そうと、B子さんに水をかけたのでした。

皆さん、A子さんへの印象は、変化しましたか。A子さんを研究室へ呼んで聞いても答えてくれなかったのは、B子さんのことを守ろうとしたのです。

つまり、自分には分からない行動をしている友達があつていても、その人には必ず理由があつてしているのです。悪いように見えても、実はよいことをしている

ともあるのです。友達の行動の中に、実は自分を氣遣つて行動してくれていたことがあるのではないのでしょうか。その人がした行動の裏にある思いに気付ける人になりたいな、と思います。

【代表生徒 意見発表】

自分の課題を一つずつ克服して、自分をさらに成長させていきたい

一年二部 M・S

中学校に入って一学期が終わり、いろいろな経験をし、学校生活にも慣れてきました。楽しかったこともあつたし、うまくいかなかったこともありましたが、その一学期を振り返って感じたことが二つあります。

一つ目は、小学校との違いです。これは入学してすぐに感じました。入学したばかりの不安の基が、この小学校との違い、レベルの差、規律などではないかと思えます。しかし、徐々に慣れてくると当たり前のようにできるようになり、不安も消えていきました。なので二学期は、一学期で日常生活に慣れた分、勉強や部活、友達との関わりなどにも、積極的に取り組んでいきたいと思えます。

二つ目は、委員会についてです。これも小学校との差もありますが、ほくは代議員会に入ったので責任感が重く、正直、今でも少しプレッシャーがのしかかっています。クラスでは話し合いの中心になりました。呼びかけをしたりしてクラスの活動を支えています。しかし委員会になるとうまく発言ができなくなりそうです。それは、自分の発言に自信が持てなくて、間違えたりしたら嫌だなあと思ってしまう

